

## 三頭山山行報告

【日時】 9月3日（日）

【天候】 晴れのち曇り

【行程】 中央線上野原駅→山交バス鶴峠 BS→神楽入ノ峰→三頭山  
三頭山→鶴峠分岐→入小沢ノ峰→ヌカザス山→イヨ山→西東京バス小  
河内神社 BS→奥多摩駅→帰葉

【参加メンバー】 柘植（CL）、石橋、上茂、渡辺（純）、飯田（記録）

【内容】 中央線上野原駅からバスに揺られること 50 分、やっと鶴峠 BS に到着。何組かのパーティーが下車したが、奈良倉山へ登るらしく、三頭山へは自分たちだけだ。

登り始めると奥多摩ではお馴染みの杉の植林がやけに目に付くが、しばらくすると自然林へと変わり辺りは一変する。木漏れ日が差し、緑のトンネル歩いているようで実に清々しく気持ちがいい。登山道もトレイルランのコースとなっていて歩きやすいのだが、後にこれがちょっとした落とし穴になることに。

自然林の爽やかな香りを全身に浴びながら分岐を目指しひたすら歩いていると、突然後方から「あった！」の聲が耳に飛び込んできた。何々？と覗いてみると毒々しい色をしたキノコでした。タマゴタケという食用キノコだそうだが、色が妙に赤いし、足は縞々模様でとても食用に見えない。聞くところによると、虫食いしているから食べられるらしい。なるほどねえ。歩いているとあっちにタマゴ、こっちにタマゴでまさにキノコのワンダーランド！

山頂目指し歩いている途中一組の年齢バラバラと思しき女子隊と遭遇。地図を片手にあっちだこっちだとワイワイやりながら楽しそう。地図読みの基礎はないとダメだよなあなんて思っていたら柘植さん、GPS をおもむろに取り出し、こっちだと言わんばかりに右に体を向け歩き出した。

急斜面を登り、息も絶え絶え、汗だらだらでやっと薄い踏み後の道にとり付いた。さすがリーダー！体が磁石でできているみたい。この日の山行のキモはこの道なき分岐で、そのまま歩いていたら三頭山から離れるばかり。危うく奥多摩湖へ一直線となるところでした。自分だったら歩きやすい道を疑いもなく歩き続けましたね。間違いない！分岐を右に折れ、神楽入ノ峰を通過すれば三頭山山頂までもう少しだ。

夏の三頭山とはいえさすがに人気の山だ。到着したのが昼時ということもあり、まさに人の山状態でした。しかしながらすでに曇り始めており、残念ながら見晴らしは悪く肌寒いくらいでした。

下山は、方向を間違えていたら着いていたはずの鶴峠分岐、入小沢ノ峰を通りヌカザス（糠指山）へ。下りが意外と急で、それも下りっぱなしで足が悲鳴を上げていました。情けねえ！この辺りもキノコだらけで、シメジの仲間や、網模様の白いタケノコやら怪しげな奴がニョキニョキ生えておりました。アカマツ林もあったので、もしかしたらマツタケがあったかも。

途中、一人の登山らしからぬ軽装のお兄さんとすれ違い、三頭山へはあとどれくらいかかるのか聞いてきた。登りがきつくどうにかこうにか登ってきたような感じだ。天候も怪しくなってきたこともあってか不安な様子で、堰を切ったように一気にしゃべり始めた。この先は何も問題はないと話をすると、安心したのか落ち着きを取り戻したように見えたが、お兄さん山頂にたどり着いたかなあ。

ヌカザス山を過ぎ、イヨ山を経て、奥多摩湖サーキットと化していた都道を命がけで歩き、通称ドラム缶橋を渡りやっ和小河内神社 BS に到着。帰りの電車内で喉を潤し、爆睡して帰葉となりました。

奥多摩とは思えないほど自然林が豊かで、秋にもう一度再訪しても面白そうな山行でした。

記録：いいだ



鶴峠 BS を降り、登山口前で。



表示の仕方が合理的なような、違うような。



白い外側が卵の殻のよう。生まれる寸前。



大きくなるとこんなやつです、タマゴタケ。



毒々しい色で、とても食用には見えません。



奥多摩とは思えない風景です。



三頭山、無酸素登頂成功！



秋の気配も感じますね。



まるで秋のキノコ収穫祭。



今はドラム缶ではないけれど、されどドラム缶橋。

